

第七回神戸大学芸術学研究会

身体と同一性

現在、われわれの身体は何処にあるのだろうか。
ネットワークにみずからの身体を接続し、記録、公開することが
常態化しつつある現在、その欲望や衝動を駆り立ててきたのが、
19世紀以来の複製技術と身体の遭遇にあったことは疑いない。
では、われわれの身体は実際にそれらテクノロジーとどのように
接続し、混ざり合い、表出させられてきたのか。そのとき、身体
の同一性は、どのように保証され、または揺るがされるのか。
本研究会では、肖像写真、フォノグラフ、遺影写真を具体例に、
以下のパネリストの報告から「身体の在処」を議論していく。

プログラム

14:40 - 報告 1 橋本一径 (早稲田大学)

「肖像権と同一性——19世紀フランスにおける写真の著作権をめぐる議論を通して」

15:15 - 報告 2 秋吉康晴 (神戸大学)

「おしゃべりするフォノグラフ——1877~1878年の蓄音機受容における声の同一性」

16:00 - 報告 3 佐藤守弘 (京都精華大学)

「遺影と擬写真——ずれていく同一性」

司会：増田展大 (日本学術振興会)

2012年11月24日(土) 14:30~

於神戸大学人文学研究科 A棟学生ホール

主催：神戸大学芸術学研究会・映像と諸文化研究会
神戸大学大学院人文学研究科古典力・対話力プログラム
<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/art-theory>